

Ⅱ．宮古市庁舎跡地活用に関する基本構想（案）について

宮古市庁舎跡地活用に関する基本構想（案）

平成 年 月

宮古市

目次

第1章 背景

- (1) 検討の経緯と方向性 1
- (2) 関連計画等における位置づけ 2

第2章 活用の条件

- (1) 計画地の概要 3
- (2) 現庁舎の取扱方針 5
- (3) 市民の意向・要望 6
- (4) 検討の視点 12

第3章 整備の方向性

- (1) 基本理念と基本方針 13
- (2) 事業費及び整備財源 17
- (3) 整備スケジュール 19

第4章 整備に向けた諸課題

- (1) 配慮すべき事項 20
- (2) 市民に親しまれる場所とするために 21

資料編

資料1 東日本大震災による中心市街地の被災状況	. . . 23
資料2 庁舎の変遷	. . . 24
資料3 本庁舎の耐震性能	. . . 25
資料4 拠点施設を中心とした中心市街地の活性化のイメージ	. . . 26
資料5 市民アンケート調査報告書	. . . 27
資料6 まちづくり市民会議の活動報告	. . . 28
資料7 全国自治体の活用（計画）事例	. . . 35
資料8 検討の推進方針と推進体制	. . . 39
資料9 検討組織	. . . 41
資料10 主な取組経過	. . . 45

第1章 背景

(1) 検討の経緯と方向性

宮古市は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、多くの人命が失われ、家屋の流出や地域経済及び産業への影響など大きな被害を受けました。また、災害対策本部となる市本庁舎が2階床まで浸水し、外部との通信手段の多くが失われ、孤立したことから災害対策本部のあり方に大きな課題を残しました。

現在の本庁舎（昭和47年竣工）は、耐震性に問題があるほか、本庁舎、分庁舎（昭和37年竣工）とも設備などの老朽化により、維持管理が課題となっています。

これらの現状を踏まえ、「宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本構想（平成26年11月策定）」では、宮古駅南側に、新たなまちづくりの中心となる「地域防災拠点施設」を整備することとし、その主要施設として、本庁舎の移転と分庁舎の集約を計画しています。



本庁舎(本館) (S47 年竣工)



分庁舎 (S37 年竣工)

また、市庁舎の移転・集約後の跡地については、新施設（地域防災拠点施設）と連動した新たな拠点として整備する予定です。その検討にあたっては、市民ニーズを広く聴き、多くの人が集う憩いの場を計画し、中心市街地地区への波及効果などを検証することとしました。

「宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本計画（平成27年3月策定）」では、「地域防災拠点施設」の整備の方向性を整理しましたが、当該事業の重要な課題の一つとして、中心市街地地区の賑わい創出を掲げていることから、これら市庁舎跡地の利活用について、平成27年度中に方向性をまとめることとしました。

本基本構想は、平成26年11月に立ち上げた「まちづくり市民会議（市民ワークショップ）」でアイデアを募集し、また、市民検討委員会、市民アンケート調査等でもご意見を伺うなど、市民の参画による検討を経て、とりまとめたものです。



まちづくり市民会議（市民ワークショップ）の様子

- ※ 資料1「東日本大震災による中心市街地の被災状況」
- ※ 資料2「庁舎の変遷」
- ※ 資料3「本庁舎の耐震性能」
- ※ 資料4「拠点施設を中心とした中心市街地の活性化のイメージ」

（2）関連計画等における位置づけ

活用事業の実施にあたっては、「宮古市総合計画（平成23～31年度）」、「新市建設計画（平成17～31年度）」、「新市基本計画（平成22～31年度）」並びに「宮古市東日本大震災復興計画（平成23～31年度）」のほか、関連する各種計画等との整合を図り、これら諸計画における各部門別の主要事業と一体的に取り組むことで、総合的に「新たな賑わいづくり」を目指す必要があります。

なお、「宮古市都市計画マスタープラン（平成15年3月策定）」は、策定から10年以上が経過し、二度の市町村合併や東日本大震災からの復興や防災意識の高まりを背景に、都市づくりの目指すべき方向性として大きな分岐点を迎えています。このことから、都市計画を必要とする各種事業の取り組みを裏づけるため、宮古市総合計画等、上位計画との整合を図りながら、当該マスタープランを見直すこととしています。

第 2 章 活用の条件

(1) 計画地の概要

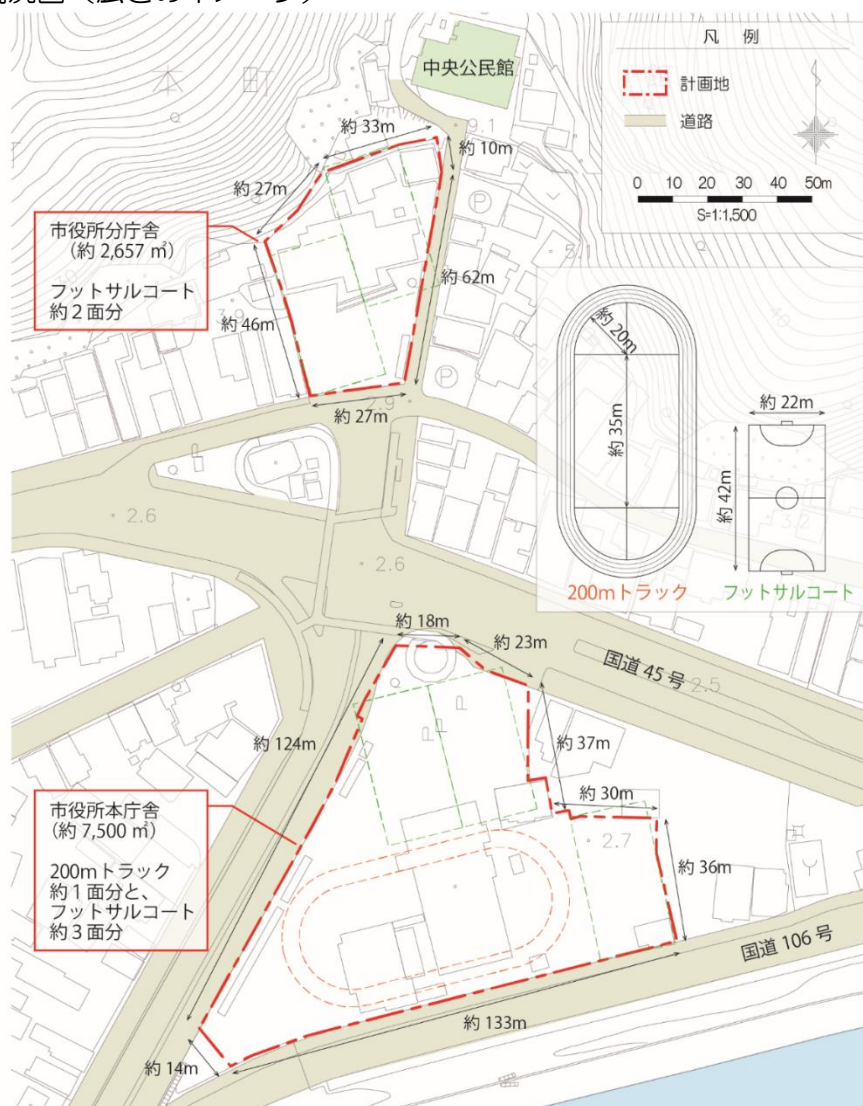
1) 敷地の現況

現在の本庁舎と分庁舎は、道路を挟み南北 100m 程度離れている位置にあります。

本庁舎は、一般国道 106 号と一般国道 45 号に囲まれ、接道条件が良く、南側及び北東側の前面道路は幅員 3m 以上の歩道が整備されています。

同様に、分庁舎も接道条件が良く、南側前面道路には歩道が整備されています。

■ 敷地現況図（広さのイメージ）



■ 主な敷地条件

	本庁舎	分庁舎
場 所	宮古市新川町 2-1	宮古市新川町 1-22
敷 地 面 積	約 7,500 m ²	約 2,657 m ²
用 途 地 域	商業地域（建ぺい率 80%）	

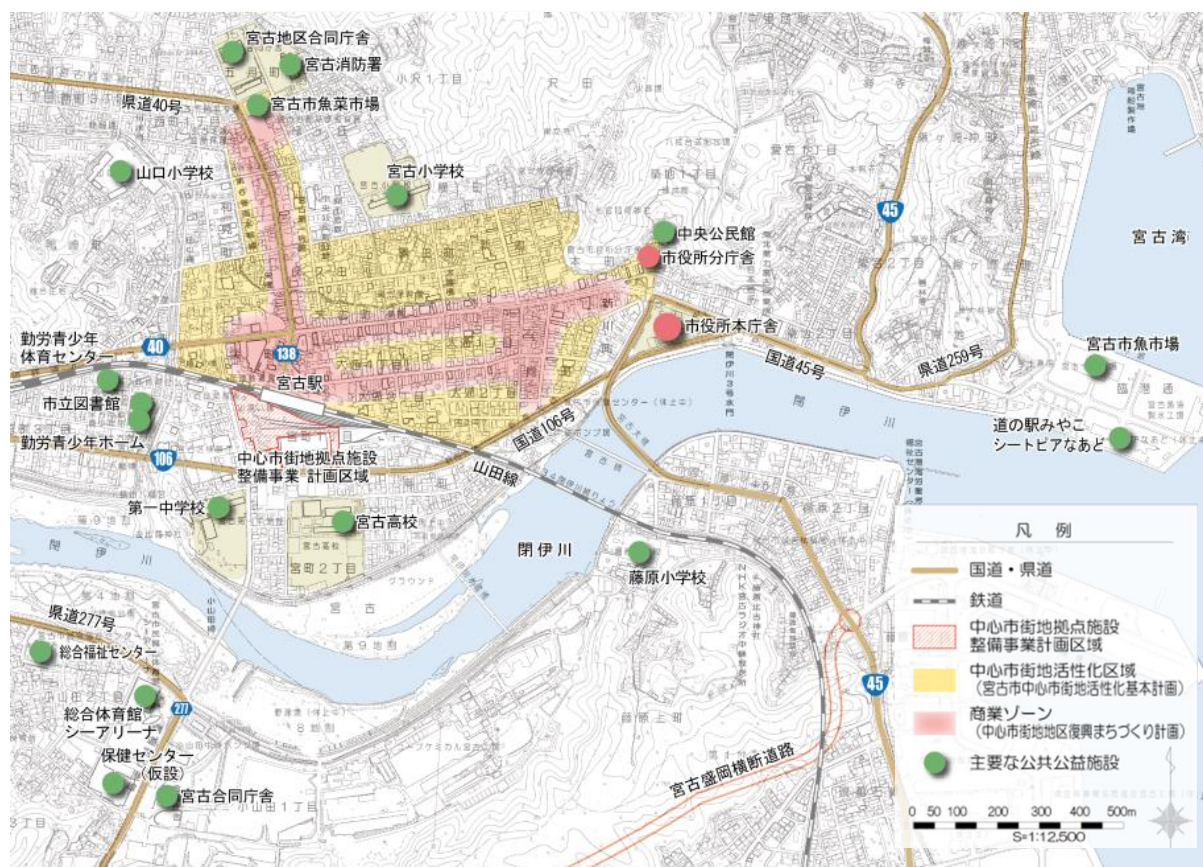
2) 周辺の土地利用の状況

敷地の西側は、商店や宿泊施設などの民間施設が集積した商店街の商業ゾーンが形成されており、宮古駅や中心市街地からのアクセス性も良好です。

これらの条件を生かした敷地の有効活用を図るとともに、歩行者向けの魅力あるアクセスルートづくりや公共交通の利便性の向上を図り、中心市街地地区と一体的な賑わいのあるまちを形成することが期待されています。

一方で、南側に望む閉伊川や北側の緑豊かな山並みなどの自然景観が残されており、周囲の景観との調和を図り、これらの身近な自然に市民が親しむことが出来るよう、敷地の特性を活かした有効活用も望まれます。

■ 位置図



（市資料より作成）

(2) 現庁舎の取扱方針

現庁舎の跡地の活用方針を検討するにあたっては、本庁舎と分庁舎の建物の取扱い方針を定めることが先決です。建物の取扱いに関わる次の事項を確認し、「整備の方向性」の前提条件を示します。

【確認事項】

- ①本庁舎は、耐震性に問題があることから、大規模地震の際には崩壊の危険性が高く、安全面や防災・災害対応の拠点としての機能を担う上で問題があります。また、本庁舎、分庁舎とも設備などの老朽化が著しく、維持管理が課題となっています。このため、宮古駅南側に本庁舎を移転（分庁舎の集約を含む）するなど、「宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本計画」（平成27年3月策定）に基づき、災害対策本部及び行政機能の集約・効率化を図ることとしました。
- ②庁舎機能が移行された後、現庁舎を活用する場合には、耐震安全性を確保することが必須であり、耐震補強費や維持管理費等相当の経費が必要です。また、耐震補強工事を行う場合でも補強後に耐用年数は延伸されないため、平成48年頃には解体の必要があります。
- ③「宮古市公共施設再配置・基本方針」（平成25年3月策定）では、「今後の財政力に応じて施設の総量削減を図るとともに、利用者ニーズに応じた質の向上を図る」こととして、「今後40年間の公共施設の更新費用を、49%(約22.5億円/年)削減する」ことを目標としています。

【前提条件】

本庁舎及び分庁舎は、新庁舎への機能移転後、可能な限り早い時期に解体し、跡地の有効活用を図ることとします。

(3) 市民の意向・要望

現庁舎の跡地活用の方向性を検討するにあたっては、市民ニーズを的確に捉え、最大限尊重することが必要です。市では、市民ニーズを把握するため、市民アンケートにより跡地活用に関する意向調査を2度（平成26、27年度）行ったほか、まちづくり市民会議（市民ワークショップ）を全8回（平成26、27年度）開催し、中心市街地の活性化の視点から検討を深めていただきました。

【市民アンケート調査（平成27年6月～7月実施）】

18歳以上の市民3,000人を対象に、郵送方式による調査を実施し、1,080人（回収率36%）から回答を得ました。

アンケートでは、跡地活用の意向を「本庁舎」と「分庁舎」に分けてお聞きしましたが、「誰でもいつでも憩える公園や広場」と回答した割合が本庁舎1位、分庁舎3位であったほか、「市民や観光客のための市営駐車場」が本庁舎3位、分庁舎2位と共通して上位に挙げられました。

また、本庁舎は、「観光案内などの情報提供や物産販売ができる場」が2位、分庁舎は、「子育てや高齢者などを支援する場」が1位という結果でした。回答の割合を見ると、分庁舎は本庁舎に比べ、「わからない」「無回答」の割合が多い傾向にありました。

〔アンケート結果：拠点施設整備後の本庁舎や分庁舎の用地の活用のあり方（期待度）について〕

□本庁舎の跡地活用

順位	内容	割合
1	誰でも、いつでも憩える公園や広場	54.4%
2	観光案内などの情報提供や物産販売などができる場	52.4%
3	市民や観光客のための市営駐車場	49.9%
4	子育てや高齢者などを支援する場	49.5%
5	レクリエーションやスポーツができる場	41.6%

□分庁舎の跡地活用

順位	内容	割合
1	子育てや高齢者などを支援する場	43.5%
2	市民や観光客のための市営駐車場	40.3%
3	誰でも、いつでも憩える公園や広場	39.9%
4	観光案内などの情報提供や物産販売などができる場	39.7%
5	歴史や文化、芸術などを伝えられる場	38.3%

*「割合」＝「期待する」＋「やや期待する」の合計

【まちづくり市民会議=市民ワークショップ(平成26年11月～平成27年8月、全8回)】

市内の高校生から40歳未満の方を中心に「まちづくり市民会議」を立ち上げ、中心市街地地区の活性化のアイディアについて、「まち歩き」や「シナリオづくり」などの活動を通して、まちなかでの「過ごし方、楽しみ方」のイメージを出し合い、「つながり」の中から市庁舎跡地での「過ごし方」を具体的に創造し共有しました。

「過ごし方のつながりから発想した、市庁舎跡地の利活用」のアイディアの多くは、単なる“場所”や“ハコモノ”ではなく、“〇〇〇ができる場所”、“〇〇〇して過ごす場所”となりました。

人が集い、人が育つ場所として、アイディア(シナリオ、シーン)を出し合い、グループで共有しました。

ワークショップで発表された「市庁舎跡地の利活用」のためのキーワード

- ・多世代の人々が日常的に集まれる場所
- ・「様々なこと」ができる場所
- ・イベントにより賑わう場所
- ・四季折々に楽しめる場所
- ・跡地を拠点として広範囲に楽しめる場所(近隣施設との連携)

※ 資料5 まちづくり市民会議の活動報告



第8回ワークショップ(平成27年8月1日実施)の様子

各班のまとめ（第6回、第7回市民ワークショップ）		各班のキーワード
A	<ul style="list-style-type: none"> ・デートできる海（砂浜） ・砂場（子どもが遊べる、ビーチバレーができる、なんならバーベキューもできる） ・メモリアル野外音楽堂 ・防潮堤を芸大生に貸し出し大きなキャンパスに ・癒しの広場（ホスピタリティ、スポーツ、アート、アクティビティ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇できる〇〇 ・イベント利用 ・スポーツ ・砂浜・砂場
B	<p>「人が集う町宮古」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跡地の公園でママ友とおしゃべり ・公園で夏フェスを開催 ・「宮古テント市」（地元の小売店が一同に会し、テントを広げて商品を販売する） ・釣り船の発着場（釣った魚をその場で加工・販売できるスペースを併設） ・水族館で友達と休日を満喫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の日常 ・イベント利用 ・〇〇できる〇〇 ・テント市
C	<p>デート・酒・文化に飢えている宮古市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園を作り、周りにジョギングコースを作る ・デートができる水族館 ・子供用アスレチック ・スタンプラリーin 宮古 ・図書館 ・ベンチに座ってお酒（ビール）を飲む 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園＋α ・〇〇できる〇〇 ・子どもの遊び場 ・お酒（ビール） ・スタンプラリー
D	<p>四季を楽しむ共育みやこ！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春夏秋冬季節ごとに楽しめる公園 ・歩道橋のイルミネーションのエリアを拡大させる（冬場限定） ・乗り物の遊具がたくさんある公園（子どもからお年寄りまで楽しめる） ・アスレチックスペース ・水産研究所 ・休憩施設で本を読む 	<ul style="list-style-type: none"> ・四季を楽しむ ・多世代で楽しむ ・スポーツ ・研究・教育
E	<p>ある日の私（とビール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外で開放的にビールを飲む ・夏・秋などの祭りの会場（使わないときは公園や広場） ・コインロッカー、シャワー室などがある“ランナーの発着所” ・公園＋展望台 ・アートフェスの案内会場 ・跡地にできたコートでフットサル 	<ul style="list-style-type: none"> ・お酒（ビール） ・祭り ・公園＋α ・スポーツ

■主なキーワード

- ・〇〇できる〇〇・・・A、B、C
- ・公園＋α・・・C、E
- ・お酒（ビール）・・・C、E
- ・スポーツ・・・A、D
- ・イベント利用・・・A、B

■その他気になったキーワード

- ・砂浜・砂場（A）
- ・テント市、普段の日常（B）
- ・子どもの遊び場、スタンプラリー（C）
- ・四季を楽しむ、研究・教育（D）
- ・祭り（E）

〔総評〕

第6回では、「ある土曜日のまちなかでの過ごし方」を紙芝居形式でシナリオづくり、第7回では、「市庁舎跡地」に焦点をあてて「過ごし方」のシナリオづくり、を行い（個人作業）イメージを共有した。「市庁舎跡地」では、

- ・公園での過ごし方の具体的なイメージが多かった。（例：イベント、音楽、スポーツ、遊具、展望など）
- ・周辺環境（海、川、商店街など）との“つながり”から「過ごす場」「使われ方」のイメージもあった。（例：発着所、防潮堤、スタンプラリーなど）
- ・全体的に「〇〇ができる□□」という表現が多かった。

各班のまとめ（第8回市民ワークショップ） ※「市庁舎跡地」の過ごし方は太字		各班のキーワード
A	森・山・川と中心市街地をつなげる！ <ul style="list-style-type: none"> ・ 閉伊川渡し舟 ・ 人力車（山を登る手段） ・ 体験のできる森（虫取り、サバイバルゲーム etc...） ・ 動物カフェ（足湯つき） ・ 野外音楽堂（バンドや伝統芸能） 	森・山・川との繋がり
B	「1日宮古で Enjoy summer！！」（4人家族） <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝市（末広町で色々なものがワンコイン） ・ 釣り船発着所 ・ 水遊び場・プール ・ 音楽フェス・イベント会場（広い公園で開催） ・ 夜市（週変わりで屋台バトル） 	家族の1日の過ごし方
C	約4kmのみやこ物語（高校生のマラソン） <ul style="list-style-type: none"> ・ 閉伊川河口のボートレース場（就職内定先を見つける） ・ 川沿いに広がる芝生（お年寄りがスポーツを楽しむ） ・ デートの出来る場所 ・ 本を読んだりリラックスできる場所（親子連れ） ・ 学校や部活動での取り組みを見てもらえる場所 	何かが見つかる場所
D	四季を楽しむ！！ in 宮古 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所跡地を四季公園に 春・・・桜がたくさん咲いている公園で市民がBBQや花見を楽しむ 夏・・・駅から公園まで車を走らせ観光船やボートで楽しむ 秋・・・産直屋台を週末に出して楽しめる。（新庁舎には地産地消レストラン） 冬・・・公園全体がイルミネーションに。多くの恋人が集まる、宮古の“恋人の聖地”と呼ばれるようになる	四季の楽しみ方
E	「学生・社会人・家族・高齢者」×「平日・休日」×「春・夏・秋・冬」 <ul style="list-style-type: none"> ・ シーサイドカフェ（学生×平日×秋、学校帰りに） ・ 交流スペースで将棋（高齢者×平日×春、趣味で集まるきっかけに） ・ サイクリング・釣り・BBQ（家族×休日×夏、ひろばあそびのパイオニアになる場所！！） ・ イベントのメイン会場（社会人×休日×冬、寒い冬でもイベントに足を運びたい！！） 	人×日×季節

〔総評〕

第8回では、「私たちは、宮古のまちなかで、こんなふうに過ごしたい！」と紙芝居形式で班で1つのシナリオをつくり、参加者、参観者でイメージを共有した。

「市庁舎跡地」では、

- ・ 公園、広場での過ごし方の具体的なイメージが多かった。
（日常的には、水遊び、デート、読書、飲食など。音楽、屋台・夜市、イルミネーション、花見などのイベント。施設としては、屋外ステージ、カフェ、水遊び場など。）
- ・ 新拠点施設や周辺環境（海、川、商店街など）との“つながり”から「過ごす場」「使われ方」「アクセスの仕方」のイメージもあった。
- ・ 全体的に「〇〇ができる□□」「〇〇を楽しむ場所」という表現が多かった。

始まりは、跡地から…

夢みる宮古マップ

皆さんの、思いをまとめてみました。

交通 バス停が広場の近くにあったらいいなあ…

観光 イベントでサイクリング！浄土ヶ浜に行ってみよう！



公園から中央通りは花の散歩道に…

浄土ヶ浜→

なあと→

冬はイルミネーションで馬場から広場まで



←図書館

↑魚菜市场

末広町

中央通

つながるみやこまち

公園・広場

宮古駅

大通り

新施設

(市民交流センター、市役所、保健センター)

ーにぎわう宮古ー

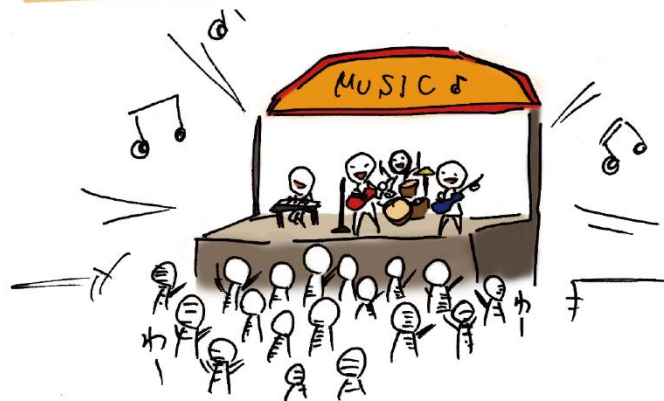
広場や市内でイベント開催。
駅の方にも行ってみようかな、
広場の駐車場があるから参加しやすいね。
家族、友達、大切な人と…
市内外の人達でにぎわう、そんな街になつたらいいなあ…



関伊川

宮古大橋

音楽フェスで盛り上がる♪
次は、参加しようかな！



のびのび体を動かせる！
スポーツができる広い場所！



公園で思いきり遊びたい！



家族、ママ友とゆっくり
すごせる場所にしたいね！



仲間で和気あいあい
お疲れさま！また一週間頑張るべ！



わくわくがはじまる

ここから

みんなで育てる

みやこ



屋台でお昼ごはん！
地のモノの良さを堪能！



(4) 検討の視点

現庁舎の跡地活用の方角性を検討するにあたって、特に重要と思われる視点を次のとおりまとめます。

1) 中心市街地への波及効果

大規模な市有地である本庁舎と分庁舎の敷地は、市の貴重な財産であり、中心市街地はもとより、市全域に賑わいをもたらし、市民の誰もが恩恵を享受できる土地利用が期待されています。跡地を単独で議論するのではなく、「中心市街地のまちづくり」へどのように寄与できるかという視点で検討することが必要です。

また、拠点施設の整備後、速やかに現庁舎を解体し、有効に活用することが必要であり、「拠点施設」と「現庁舎跡地」を中心に人を呼び込み、市街地への人の流れを生み出すことが必要です。

2) 敷地の現況

市の中心部に位置する現庁舎は、国道 106 号と国道 45 号に囲まれ、アクセスが良い場所であり、市民の集合場所や団体利用のバスの発着、経由地にも使われており、そのような機能を残すことも検討します。計画地は、中心市街地から徒歩圏内であり、計画地を出発点とした「まち歩き」も期待されます。

3) 震災の歴史

本庁舎と分庁舎は、東日本大震災により被災した場所であり、津波襲来時に撮られた生々しい映像が、インターネットで全世界に発信され、震災の記憶や教訓を後世に伝える象徴的な場所の一つとなっています。

本計画地は市の震災の記憶を伝える場所として相応しい場所であり、メモリアル機能の整備を検討することが必要です。

第3章 整備の方向性

(1) 基本理念と基本方針

第2章でまとめた活用の条件を基に、次のとおり基本理念と基本方針を定めます。

【基本理念】

「賑わいを創り出し、共に育む」新しい空間

【基本方針】

- ①市民が日常的に集い、語らう、憩いの場
- ②四季を通じてイベントを楽しむ、賑わいの場
- ③周辺と結びつき、まちを育てる、つながりの場
- ④自然（森・川・海）を敬い、震災の記憶を、伝承する場

【整備（活用）イメージ】

①広場・緑地・公園

- ・休憩や談話を楽しめるベンチ付きの公園
- ・スポーツやレクリエーションができる平坦な広場
- ・様々なイベントを開催できる広場・緑地
- ・音楽など、様々なイベントや市民イベントを開催するための屋根付きステージ



公園ベンチ（中野区・中野四季の森公園）



公園ベンチ（紫波町・オガール広場）



軽トラ市（青森県黒石市・じょんから軽トラ市）



イベント広場（茨城県筑西市・県西総合公園）



イベントステージ（弘前大学キャンパス内）



芝生広場（町田市・町田シバヒロ）

②付帯する施設

- ・広場利用者が飲食や休憩ができる場
- ・市内を回遊するため自転車を貸出する場



キッチンカー（岩手県釜石市）



オープンカフェ（滋賀県大津市・なぎさのテラス）



サイクルステーション（青森県弘前市・津軽藩ねぶた村）



野外炊事施設（神奈川県大和市・大和ゆとりの森）

③メモリアル施設

- ・震災の記憶を伝えるメモリアル施設（モニュメント・築山など）
- ・津波の高さを表すメモリアル施設（モニュメント）



平和の鐘（広島平和記念公園）



震災メモリアルパーク中の浜



希望の鐘（宮城県岩沼市・千年希望の丘）



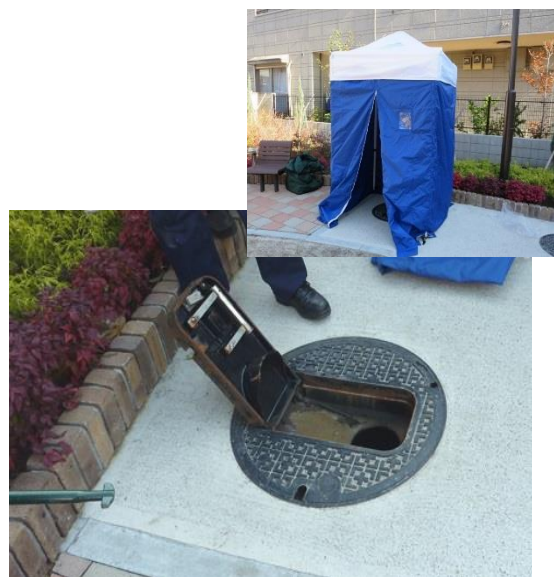
東日本大震災モニュメント（塩竈市）

④その他

- ・誰もが使いやすいトイレ・授乳室
- ・広場を管理し、周辺の観光施設・メモリアル施設を案内できる管理棟
- ・イベント物品などを保管する倉庫
- ・常時利用できる駐車場
- ・かまどベンチ、防火水槽、災害用トイレ



かまどベンチ（イメージ）



災害用トイレ（イメージ）

※ 資料6 全国自治体の活用（計画）事例

(2) 事業費及び整備財源

本庁舎と分庁舎の解体費については、市で行った解体工事の実績や、他市の解体工事の事例、刊行物の単価などを参考に、概ね 3 億円程度を見込みます。

また、現庁舎の跡地整備に要する費用は、整備内容により異なりますが、現段階では、まちづくり市民会議（市民ワークショップ）などで出された活用のアイディアを基に、下表のとおり概ね 3 億円程度を見込みます。

解体費及び整備費は、現段階での試算ですが、今後予定している「基本計画」の策定作業や、実施設計の段階で更に精査します。なお、整備財源については、補助金や起債などを活用することを想定し、市の負担を極力抑えた計画とします。

【他市などの解体工事の事例】

施設名	市本庁舎 分庁舎	茨城県 A市庁舎	長野県 B市庁舎	三王園地	浄土ヶ浜 レストハウス
解体時期	平成 30 年 着手予定	平成 27 年 7 月着手	平成 27 年 10 月着手	平成 21～ 23 年	平成 21 年
延床面積	8,298.39 m ²	12,345 m ²	4,634 m ²	8,220 m ²	1,225.29 m ²
構 造	RC 造、 一部 SRC 造	RC 造、 一部 SRC 造	RC 造	RC 造	RC 造
解体費用	300,000 千円	308,000 千円	105,282 千円	219,770 千円	35,892 千円
m ² 単価	約 36,000 円	約 25,000 円	約 23,000 円	約 27,000 円	約 30,000 円

※ 市本庁舎と分庁舎には、本庁舎の本館と別館、分庁舎に付属する倉庫の解体を含みます。

【整備費用の目安】

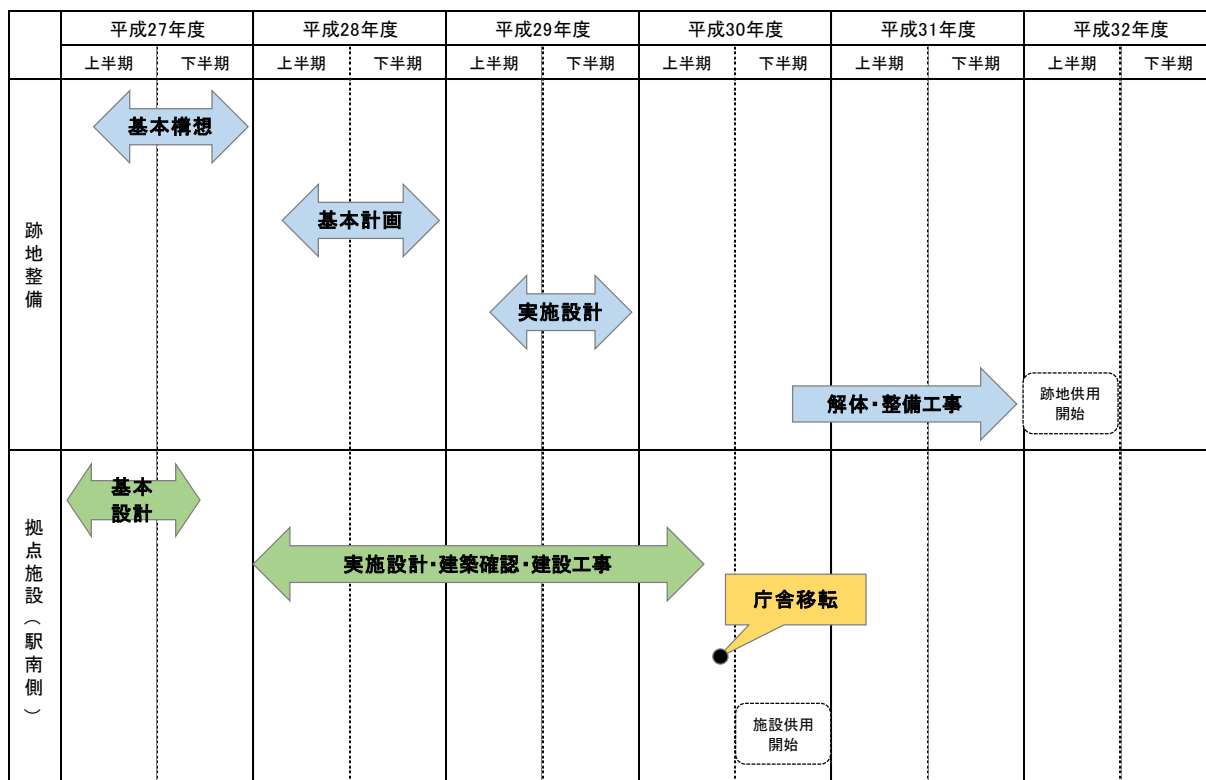
跡地	整備費用	整備内容の例
本庁舎・分庁舎	約 3. 0 億円	芝生、植栽、駐車場、屋根付き駐輪場 フェンス、屋根付きイベントステージ トイレ、ベンチ、遊具

(整備財源一覧表)

		概要	補助率(起債率)
社会資本整備総合交付金	都市再生整備事業	地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的とする事業	40%
	地方都市リノベーション事業	①地方都市の既成市街地において、既存ストックの有効利用を図りつつ、将来にわたって持続可能な都市とするために必要な都市機能（医療・福祉・子育て支援・教育文化・商業等）の整備・維持を支援し、地域の中心拠点の形成を図ることを目的とする事業 ②さらに、中心拠点と公共交通によって結ばれた駅・停留所の周辺部において、地域の生活に必要な都市機能（医療・商業等）の整備・維持を支援し、生活拠点の形成を図ることを目的とする事業	50% 中心拠点区域内・生活拠点区域内：交付率50% 中心拠点区域外・生活拠点区域外で一体不可分である事業：交付率40%
過疎債		過疎地域自立促進特別措置法（平成12年法律第15号）に基づく過疎地域の市町村が、過疎地域自立促進市町村計画に基づいて行う事業の財源として特別に発行が認められた地方債である。 過疎対策事業債は、総務大臣が各都道府県に同意等予定額の通知を行い、各都道府県知事が市町村ごとに同意（許可）を行う。 その元利償還金の70%は普通交付税の基準財政需要額に算入されることとなっている。	100% （元利償還金の70%が交付税算入）
一般単独事業費		一般事業は、地方財政法第5条等に規定する適債事業のうち、地方債計画の他の事業項目で措置されないすべての事業を対象とするものであり、機構資金については河川等整備事業（中小河川の整備）や臨時高等学校整備事業（建築後15年程度を経過した高等学校の改築事業等）等が貸付対象となります。	75% （資金手当のみ） ※地域活性化事業の場合、充当率90%

(3) 整備スケジュール

現庁舎の跡地活用に関する基本計画の策定、実施設計を順次進め、地域防災拠点施設の供用開始を予定する平成30年度には、現庁舎を解体のうえ、跡地の整備に着手し、31年度の完成、32年度の供用を目指します。



第4章 整備に向けた諸課題

(1) 配慮すべき事項

1) 市民ニーズへの対応

跡地整備の基本計画策定にあたっては、市民アンケート調査から読み取れる潜在的なニーズを把握するため、市民や関係団体に対して聞き取り調査などを実施する必要があります。特に、「情報提供、物品販売、子育て支援、高齢者支援」といったニーズに関しては、市内に分散する既存の機能を確認し、広い視野で検討を進めていくことが重要です。

また、跡地の整備後は、市民の利用に供して利用促進を図るとともに、将来的には、市の財政事情などの制約条件を勘案しながら、施設の利用実態や市民ニーズ、跡地を取り巻く社会環境の変化に対応して、活用方法を見直し、市民と共に、その場所を育てていくことが必要です。

2) 市財政への影響

跡地の整備にあたっては、整備費用及び整備後の管理体制や経費を検証し、今後、負担可能な金額を見定め、その範囲内で最大限、市民の期待に応えられる整備内容とすることが必要です。特に、宮古駅南側の拠点施設整備は、これまでに例を見ない大規模な事業であり、多額の財政負担を要することから、今後実施される拠点施設の実施設設計などにより、整備コストを精査しながら、2つの事業を一体的にコントロールしていく必要があります。

3) 地盤高（洪水等の観点）

「宮古市総合ハザードマップ（平成20年3月全世帯配布）」によると、計画地（現庁舎）及び中心市街地拠点施設整備計画区域を含む中心市街地の多くは、100年に1度程度の大雨による洪水で浸水が想定されており、洪水対策について配慮が必要です。

「宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本計画（平成27年3月）」では、「洪水シミュレーションの諸元」や「堤防や用地の標高」、「過去の被害状況（アイオン台風）」等を基に、浸水深をより具体的に検証しています。

同様の算定方法により現庁舎の浸水深を推定すると、本庁舎 3.4～4.1 m、分庁舎 0～3.3 m となり、洪水等の影響も配慮する必要があります。

